

第2回東京大学医学系研究科公共健康医学専攻運営諮問会議
議事録

日 時：2020.12.10（木）10:30～12:00

場 所：Zoom オンライン会議

出席者：浅野委員、坂元委員、高原委員、馬場委員

陪席者：橋本（公共健康医学専攻長）、福士（大学院担当）

< 議事 >

1. 事務局挨拶

橋本専攻長より、本諮問会議の設置背景、趣旨等について説明があった。

2. 委員、出席者紹介

橋本専攻長より、委員紹介がなされた。

3. 議長選出

橋本専攻長より、議長については自ら担当してよろしいか提案があり、審議の結果、承認された。

4. 教育活動報告と質疑

5. 次年度教育計画と質疑

1) コロナ禍における授業実施の状況について

橋本専攻長より、資料に基づき、東京大学医学系研究科公共健康医学専攻の2020年度の授業実施状況について説明があり、質疑が行われた。

(坂元委員) 2020年度はオンラインによって授業を行ったということだが、オンラインによる授業参加に支障のある学生はいたか

(橋本) 本専攻ではいなかった。

(坂元委員) メンタルに問題を抱える学生は出なかったか

(橋本) 資料にもある通り、コロナがきっかけで連絡が取りづらくなっていると思われる学生が2名おり、専攻会議でも学生との定期連絡の徹底を周知しているが、引き続き学生のメンタル支援の課題への取り組みが必要と認識している。

(浅野委員) オンライン授業では、同期生とのつながりが希薄になることが問題である。オフラインでの学生同士のつながりはあるか

(橋本) 学生による自主セミナーの開催を許可しており、週一回のペースで行われている。同窓会は停止しているがチャットによるつながりは維持しているようだ。

(坂元委員) 自分の大学では前期はオンラインで実施したが、メンタルに問題を生じる学生が多かったので、後期は行動制限をしたうえで対面授業に切り替えた。

(馬場委員) 足立区でも同様に、オンライン業務は孤立しがちなことが問題となっている。

(高原委員) 留学生に同様の問題は生じているか

(橋本専攻長) 今のところ問題は生じていない。

2) 2021年度入学者選抜について

橋本専攻長より、資料に基づき、2021年度入学者選抜については、対面による筆記試験が困難なことからオンラインによる実施に切り替え、従来の知識を重視した選抜ではなく、新たにコンピテンシーベースの評価判断による選抜を試みた旨説明があり、質疑が行われた。

(浅野委員) 医学部卒業生が統計を学ぶためだけに入学してくる学生はいるか

(橋本) 定かではないが志願者数が増えたこともあって、学生の属性も広がりを見せている。

(浅野委員) コンピテンシーを重視するなら、一次選考と二次選考の順番を逆にする手もあるのでないか。

(橋本) 各教員の評価にバラつきが生じることは避けられず、調整に手間がかかり過ぎる恐れがある。

(馬場委員) 統計や英語などの学力が不足のまま入学してくる可能性があるが、対策は考えているか。

(橋本) 入学前に簡単なテストを実施してスクリーニングを行い、適切な支援を行うことを予定している。

(坂元委員) 学力と多様性のバランスが非常に大事だと思う。

(高原委員) 公共政策大学院でも同様の問題があり、多様な学生を継続してモニタリングすることが求められる。

3) 昨年度ご指摘いただいた点について

橋本専攻長より、資料に基づき、昨年度の本会議でご指摘のあった公衆衛生実践教育に必要なコンピテンシーの育成について、及び国際化に向けての取り組みについて報告があり、質疑が行われた。

(浅野委員) 今年状況を考えるなら、ここまで活動しているのは評価できるが、来年については、一層の工夫が必要となる。特にコロナ禍が下降した場合の対応について考える必要がある。

(坂元委員) 今年状況が続くようなら、専門職大学院の基準も見直しを考える必要があるかもしれない。

(馬場委員) 足立区衛生部の活動に貴学の支援をいただけたことに敬意を表したい。
職員も来年度に向けて見直しを図りたいと考えており、今後も実践フィールドの提供は継続したいので、貴学の支援を引き続きお願いしたい。

(高原委員) 現場での活動に基づいた政策提言ができたことは大変素晴らしいことで、公共政策大学院でも参考にしたい。

(橋本) 次年度は、今年度の蓄積をどのように活かすか、またどのようにシステムティックに採り入れていくかが課題となっていくと考えている。

6. その他

特になし。

7. 閉会挨拶

最後に、橋本専攻長から、各委員の協力に対し謝辞が述べられ、閉会した。

以 上